

# お金のデザイン・グローバル・ソーシャル・ デベロップメント・ファンド 愛称：地球貢献

追加型投信／内外／資産複合

## 交付運用報告書

第2期(決算日2023年9月11日)

作成対象期間(2022年9月13日～2023年9月11日)

### 第2期末(2023年9月11日)

基準価額	10,217円
純資産総額	13,536百万円
第2期	
騰落率	△ 1.7%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。

○右記弊社ホームページの「ファンド情報」等から当ファンドのファンド名を選択することにより、当ファンドの「運用報告書(全体版)」を閲覧およびダウンロードすることができます。

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「お金のデザイン・グローバル・ソーシャル・デベロップメント・ファンド」は、このたび第2期の決算を行いました。当ファンドは、「お金のデザイン・グローバル・ソーシャル・デベロップメント・マザーファンド」受益証券を通じ、主として世界の上場投資信託証券(ETF)への投資を通じて、環境や社会における課題解決に注力している企業を中心に分散投資し、「社会的リターン」を加味した収益をとらえることにより、投資信託財産の長期的な成長を目指します。当期につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## お金のデザイン

東京都千代田区紀尾井町1番3号

<照会先>

電話番号：03-6629-7090

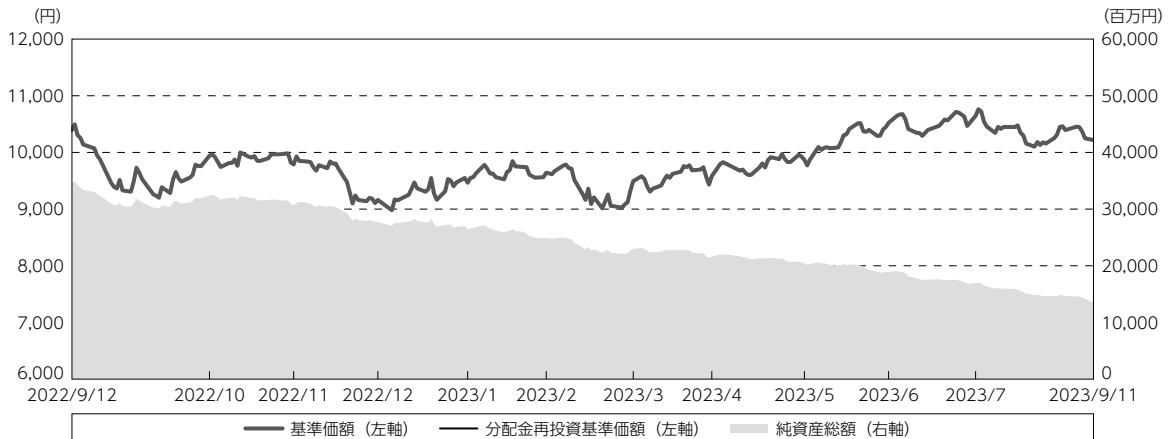
(受付時間：委託会社の営業日の9：30～17：00)

ホームページ：<https://www.money-design.com/>

## 運用経過

### 期中の基準価額等の推移

(2022年9月13日～2023年9月11日)



期首：10,396円

期末：10,217円(既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：△ 1.7%(分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首(2022年9月12日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドの運用方針に対して適切に比較できる指数がないため、ベンチマークならびに参考指数は表示しておりません。

### ○基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額は、1.7%下落しました。

当ファンドは、「お金のデザイン・グローバル・ソーシャル・デベロップメント・マザーファンド」受益証券を組み入れることにより実質的な運用を当該マザーファンドにおいて行っております。

当期も16のテーマに着目した運用を継続しましたが、テーマ間でパフォーマンスに比較的大きな乖離が見られました。具体的には、「クリーン・テクノロジー」、「汚染排出物削減」、「スマートシティ」、「二酸化炭素排出削減」など環境関連テーマで組み入れているETFが総じて軟調で、ファンド基準価額のリターンにマイナス寄与となる傾向がありました。その一方で、「従業員生活支援」、「公正な労働環境」、「機会均等・人材育成・多様化」、「医療民主化」など社会関連テーマがプラス寄与となりました。

また、当期は日本と米国の金利差が拡大したことなどから、米ドルが前期末と比べて対円で3%程度上昇しました。当ファンドは為替ヘッジを行っていないため、この為替相場の変動がファンドの基準価額にプラスの影響をもたらし、パフォーマンスにもプラス寄与しています。

## 1万口当たりの費用明細

(2022年9月13日～2023年9月11日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	108	1.097	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	( 53)	(0.538)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	( 53)	(0.538)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	( 2)	(0.022)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	5	0.055	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
（ 投 資 信 託 証 券 ）	( 5)	(0.055)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有 価 証 券 取 引 税	0	0.001	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数
（ 投 資 信 託 証 券 ）	( 0)	(0.001)	有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) そ の 他 費 用	6	0.062	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	( 3)	(0.027)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	( 0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	( 3)	(0.032)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	119	1.215	
期中の平均基準価額は、9,825円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

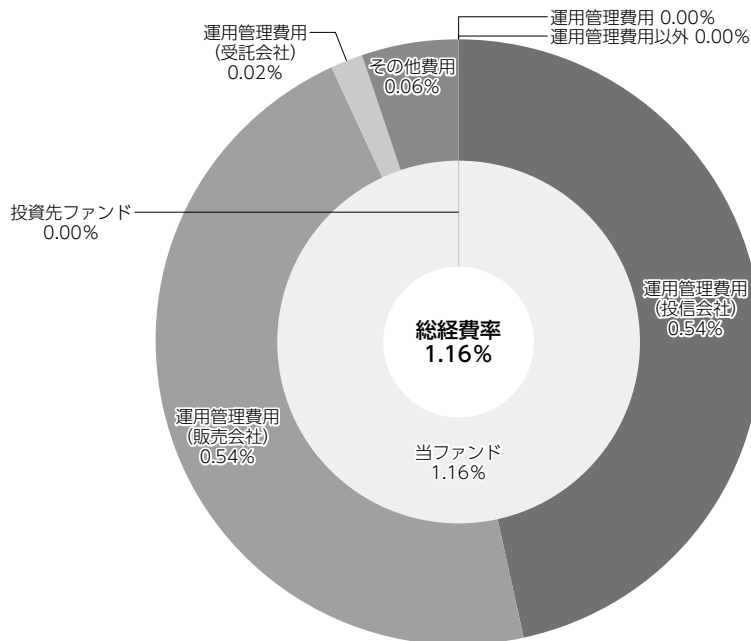
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.16%です。



(単位：%)

<b>総経費率(①+②+③)</b>	<b>1.16</b>
①当ファンドの費用の比率	1.16
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.00
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.00

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドの親投資信託が組み入れている投資信託証券です。

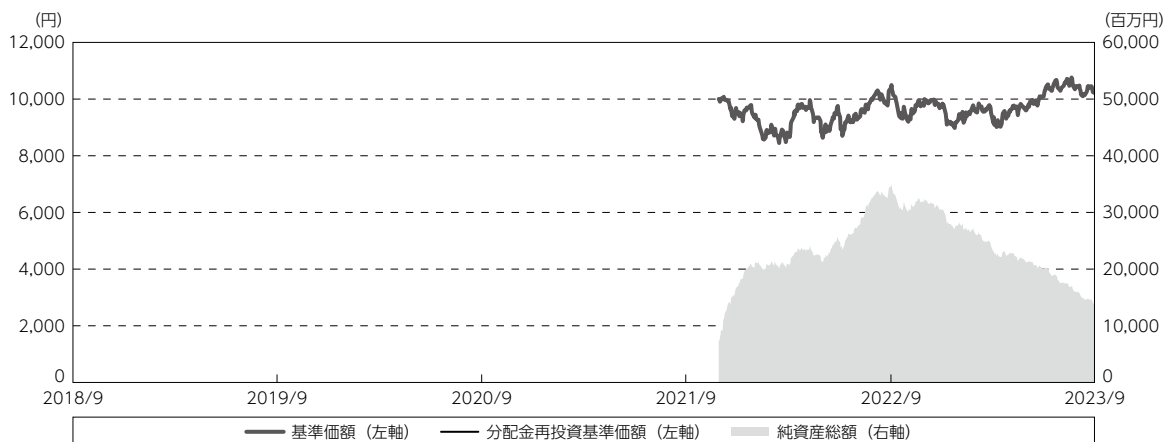
(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2018年9月10日～2023年9月11日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 当ファンドの設定日は2021年11月8日です。

	2021年11月8日 設定日	2022年9月12日 決算日	2023年9月11日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,396	10,217
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	4.0	△ 1.7
純資産総額 (百万円)	7,369	34,631	13,536

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。  
ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2022年9月12日の騰落率は設定当初との比較です。
- (注) 当ファンドの運用方針に対して適切に比較できる指数がないため、ベンチマークならびに参考指数は表示しておりません。

## 投資環境

(2022年9月13日～2023年9月11日)

世界の株式市場は、先進国を中心に全体として上昇しましたが、地域や業種によって異なる展開となりました。

米国では、当期中に7回の利上げが決定され、金利が上昇する中でインフレ指標やFRB（米連邦準備制度理事会）高官の発言などに反応しやすい相場展開となりましたが、通期で米国株式は上昇しました。債務上限問題や一部地方銀行の経営破綻などから下落する場面もありましたが、6月から7月にかけてインフレ圧力が和らぐ一方で経済指標と企業決算が好調だったことから景気のソフトランディング期待が高まり株価が上昇しました。

欧州株式も主要中央銀行の金融政策をにらみながらの神経質な展開となりましたが、通期で前期末比プラスとなりました。1月から2月にかけては暖冬により、ロシアへの経済制裁の影響によるエネルギー不安が後退したことを受けて株式は上昇しました。

日本株式は、当分のあいだ利上げの可能性が低いことや、東京証券取引所がPBR1倍割れの企業に株価上昇のための対策を要請したことなどを背景に海外からの資金が流入したことに加え、期の後半には円安による輸出企業の業績改善やインバウンド需要の回復による関連企業の売り上げ拡大への期待などから上昇しました。

新興国株式は国によってかなり異なる結果となりました。台湾やインド株式は上昇しましたが、中国・香港の株式は米中対立や不動産市場の低迷などを受けて国内景気への先行き不透明感が広がり、軟調な推移となりました。

このような市場環境のなか、ESGに着目したETFもテーマによって組み入れている銘柄の業種や国の比率が異なるため、まちまちな結果となりました。日本株が大きく上昇したことから「機会均等・人材育成・多様化（日本）」テーマで組み入れているETFが高いリターンとなりました。「スマート・インフラ」で組み入れているETFも組み入れている電子部品製造などの企業が好業績だったことを受けて上昇しました。「機会均等・人材育成・多様化（グローバル）」、「公正な労働環境」、「従業員生活支援」など、他の社会関連テーマも円ベースで上昇しています。その一方で、電気自動車向けバッテリー充電システムや太陽光発電など環境関連技術に関する一部テクノロジー株の業績が悪化したことなどから「クリーン・テクノロジー」、「汚染排出物削減」、「代替・再生エネルギー」、「二酸化炭素排出削減」、「スマートシティ」などは下落しました。

## 当ファンドのポートフォリオ

(2022年9月13日～2023年9月11日)

当ファンドは、「お金のデザイン・グローバル・ソーシャル・デベロップメント・マザーファンド」受益証券への投資を通じ、主として世界の上場投資信託証券（ETF）に投資することで、実質的に世界の株式等へ分散投資を行います。

ETFの選定においては、ESGのうち、「E」である「環境」と、「S」である「社会」を主たる要素とし、ESG評価機関の評価に基づいた客観的な尺度を用いて投資を行います。

当ファンドの目的は、環境や社会における課題解決に注力していると考えられる企業を中心に分散投資を行い、投資信託財産の長期的な成長を目指すことです。これに向けて、テーマごとに定められた客観的な評価尺度を活用しながら投資を行いました。

## 当ファンドにおけるESGに関する投資判断基準について

当ファンドでは、SDGsをベースに環境や社会に関する16のテーマを独自に設定しています。

環境テーマ		対応するSDGs		社会テーマ		対応するSDGs		
地球環境	二酸化炭素排出削減	7 エネルギーを みんなにそして クリーンに	13 気候変動に 具体的な対策を			3 すべての人に 健康と福祉を		
	代替・再生エネルギー	7 エネルギーを みんなにそして クリーンに	9 産業と 技術革新の 基盤をつくる	13 気候変動に 具体的な対策を		3 すべての人に 健康と福祉を		
	クリーン・テクノロジー	7 エネルギーを みんなにそして クリーンに	9 産業と 技術革新の 基盤をつくる	13 気候変動に 具体的な対策を		2 飢餓を ゼロに	3 すべての人に 健康と福祉を	
	環境ファイナンス	7 エネルギーを みんなにそして クリーンに	9 産業と 技術革新の 基盤をつくる	13 気候変動に 具体的な対策を		2 飢餓を ゼロに	3 すべての人に 健康と福祉を	
	汚染排出物削減	12 つくる責任 つかう責任				4 質の高い 教育を みんなに	5 ジェンダー 平等を 実現しよう	8 働きがいも 経済成長も
	水資源保全	6 安全な水と トイレを 世界中に	14 海の豊かさを 守ろう			4 質の高い 教育を みんなに	5 ジェンダー 平等を 実現しよう	8 働きがいも 経済成長も
	スマートシティ	9 産業と 技術革新の 基盤をつくる	11 住み続けられる まちづくりを	15 陸の豊かさも 守ろう		1 貧困を なくそう	8 働きがいも 経済成長も	
	スマート・インフラ	9 産業と 技術革新の 基盤をつくる	11 住み続けられる まちづくりを	15 陸の豊かさも 守ろう		1 貧困を なくそう	8 働きがいも 経済成長も	
ヘルスケア				医療民主化		3 すべての人に 健康と福祉を		
				衛生管理		3 すべての人に 健康と福祉を		
				栄養改善		2 飢餓を ゼロに	3 すべての人に 健康と福祉を	
				高齢者サービス		2 飢餓を ゼロに	3 すべての人に 健康と福祉を	
労働環境				機会均等・人材育成・多様化（グローバル）		4 質の高い 教育を みんなに	5 ジェンダー 平等を 実現しよう	8 働きがいも 経済成長も
				機会均等・人材育成・多様化（日本）		4 質の高い 教育を みんなに	5 ジェンダー 平等を 実現しよう	8 働きがいも 経済成長も
				従業員生活支援		1 貧困を なくそう	8 働きがいも 経済成長も	
				公正な労働環境		1 貧困を なくそう	8 働きがいも 経済成長も	

(注) SDGsは2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で示された国際目標（Goals）です。貧困・格差の撲滅をはじめ、持続可能な世界を実現するために、国際社会全体が取り組むべき目標です。

これらのテーマ毎に、ETFをそれぞれ1～3銘柄程度選択してポートフォリオを構築することにより、それぞれのテーマの特性を明確にしつつ効率的に分散投資を行うことを目指します。

テーマに沿ったETFを選択する際には、テーマ毎に定義された独自の定量指標（テーマ別スコア）を 사용합니다。

テーマ別スコアは、MSCI ESG ResearchのESG関連データのうち各テーマに関連性の高い指標を組み合わせて定義されます。

MSCI ESG Researchのデータを用いる主な理由は、次の2点です。

### 1. カバレッジの広さ

ETFのテーマ別スコアを算出する際には、そのETFが保有する個別銘柄のESG関連データが必要です。また、数多くのETFの中からテーマ別スコアの高いETFを比較選別するためには、可能な限り多くのETFのスコアを計測する必要があるため、幅広い個別銘柄について同一基準でのデータが必要となります。MSCI ESG Researchは世界株式市場の主要な企業に関するESG情報を提供しているため、現時点においては当ファンドのテーマ別スコア算出のためのデータとして最も適しています。

## 2. リサーチの透明性・客観性

当ファンドのようなETFを通じた株式投資では、効率的に世界株式に分散投資することが可能となる一方で、間接的に保有する銘柄数が非常に多くなるため、ETFが保有するすべての企業についてESG関連のリサーチを独自で行うことは事実上困難です。また、議決権を保有していないため、個別企業と直接対話を行うことも難しくなります。このような状況では、個別企業についてのESGリサーチを試みることはポートフォリオ全体のESG特性の向上のために効果的とはいえず、むしろ客観的なデータに基づく定量分析に徹するべきです。MSCI ESG ResearchはデータやMethodologyの開示も十分であり、当ファンドの運用目的に適しています。

テーマ別スコアを定義する際には、基本的に各テーマと関連性の高いMSCI ESG ResearchにおけるKey Issueを選択します。MSCI ESG Researchが定義するKey Issueと当ファンドのテーマは必ずしも一致しないため複数のKey Issueを合成したスコアを定義することがあります。

テーマ別スコアは投資対象となり得るすべてのETFについて計算され、テーマごとにスコアが上位のETFがファンドに組み入れられます。

ただし、テーマ別スコアが高くても、ESGとは無関係な戦略に特化したアクティブETFや、特定の地域や業種に特化したETFなどについては、将来的なスコアの安定性が期待できないことやポートフォリオ全体としてのリスク管理の観点などから組み入れない場合があります。

また、流動性や経費率、ファンド全体としての国・地域や業種のバランスも考慮されます。

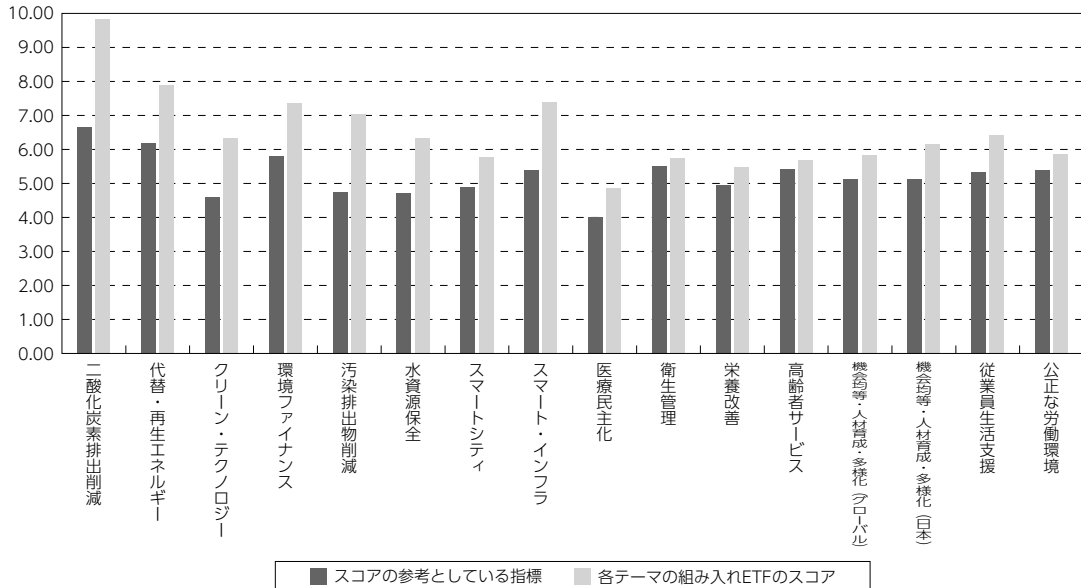
組み入れの目安として、代表的な世界株式（またはそのETF）において計測されたスコアを“（スコアの）参考指標”とし、各テーマについてそれを下回るスコアのETFは原則として投資対象から外しています。

組み入れETFおよび参考指標の計算対象を含む投資可能なETFのテーマ別スコアは原則として月1回計測され、組み入れETFのESG特性が維持されていることを確認し、投資政策委員会に報告されます。



2023年8月における、各テーマの組み入れETFのスコアは下グラフの通りです。

テーマ別スコア



- (注) 各テーマの組み入れETFのスコアが、スコアの参考としている指標を上回ることを意識してポートフォリオ構築を行っております。
- (注) スコアが参考としている指標は、代表的な世界株式ETFとして「iシェアーズ MSCI ACWI ETF」の公開情報をもとに計算しております。
- (注) 各テーマのスコアの計算方法は変更される可能性があります。

弊社のESGファンドの考え方等は、今後のESGを取り巻く情勢等に応じ見直す場合があります。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2022年9月13日～2023年9月11日)

当ファンドは、運用方針に対して適切に比較できる指数がないため、ベンチマークならびに参考指数は設定しておりません。

## 分配金

(2022年9月13日～2023年9月11日)

当期の分配金は、長期的な投資信託財産の成長を追求する観点から無分配とさせていただきます。また、収益分配に充てなかった利益につきましては信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

### ○分配原資の内訳

(単位：円、1万円当たり、税込み)

項 目	第2期
	2022年9月13日～ 2023年9月11日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	759

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

引き続き、「お金のデザイン・グローバル・ソーシャル・デベロップメント・マザーファンド」受益証券への投資を通じ、環境や社会における課題解決に注力している企業を中心に構成された世界的上場投資信託証券（ETF）に投資を行うことにより、効率的な運用を行うことを目指します。ETFの選定には独自の評価基準を用い、取引コストや流動性なども考慮しながら組入比率を調整して参ります。

## お知らせ

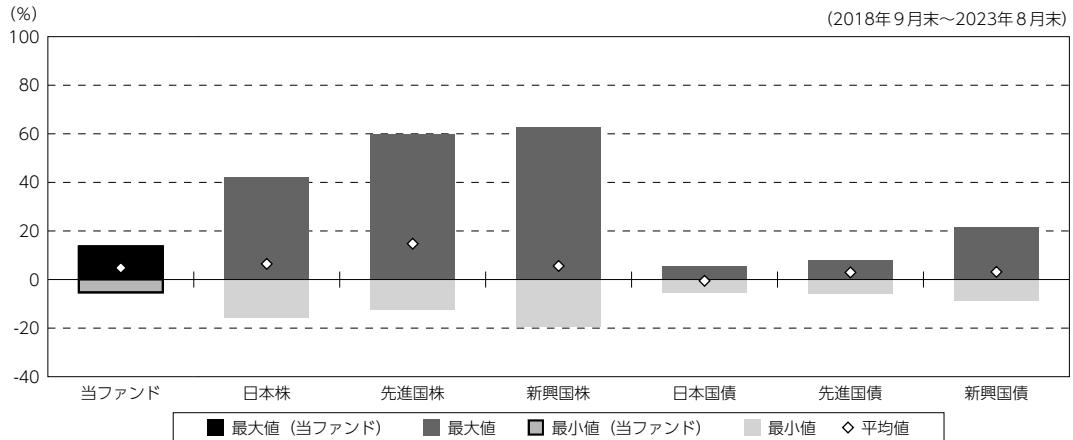
該当事項はございません。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	原則として、無期限です。（設定日：2021年11月8日設定）	
運用方針	「お金のデザイン・グローバル・ソーシャル・デベロップメント・ファンド」は、マザーファンド受益証券への投資を行います。	
主要投資対象	ベビーフンド	お金のデザイン・グローバル・ソーシャル・デベロップメント・マザーファンド受益証券を主要な投資対象とします。
	マザーファンド	世界の株式市場に上場されている上場投資信託証券（ETF）等を主要な投資対象とします。
運用方法	主として世界的上場投資信託証券（ETF）への投資を通じて、環境や社会における課題解決に注力している企業を中心に分散投資し、「社会的リターン」を加味した収益をとらえることにより、投資信託財産の長期的な成長を目指します。	
分配方針	毎年9月10日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、収益分配方針に基づき収益分配を行います。ただし、必ず分配を行うものではありません。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	13.7	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	21.5
最小値	△ 5.3	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8
平均値	4.8	6.5	14.8	5.6	△ 0.5	2.9	3.2

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年9月から2023年8月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2022年11月以降の年間騰落率を用いております。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

各資産クラスの指数

日本株・・・東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株・・・MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株・・・MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI国債

先進国債・・・FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債・・・JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

※詳細は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 当ファンドのデータ

### 組入資産の内容

(2023年9月11日現在)

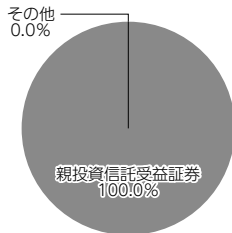
#### ○組入上位ファンド

銘柄名	第2期末
お金のデザイン・グローバル・ソーシャル・デベロップメント・マザーファンド	100.0%
組入銘柄数	1銘柄

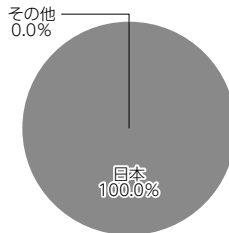
(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

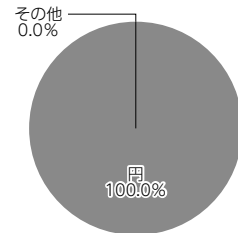
#### ○資産別配分



#### ○国別配分



#### ○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

### 純資産等

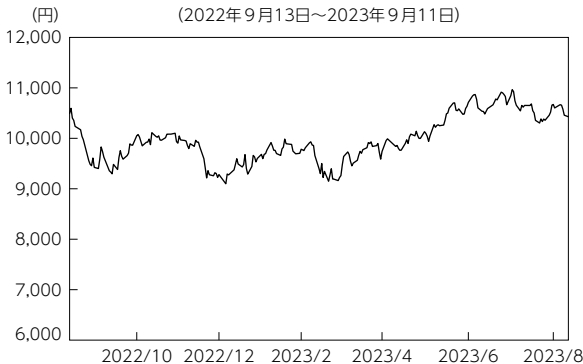
項目	第2期末
	2023年9月11日
純資産総額	13,536,629,819円
受益権総口数	13,248,761,604口
1万口当たり基準価額	10,217円

(注) 期中における追加設定元本額は1,123,669,363円、同解約元本額は21,188,104,703円です。

## 組入上位ファンドの概要

### お金のデザイン・グローバル・ソーシャル・デベロップメント・マザーファンド

#### 【基準価額の推移】



#### 【1万口当たりの費用明細】

(2022年9月13日～2023年9月11日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (投資信託証券)	5 (5)	0.054 (0.054)
(b) 有価証券取引税 (投資信託証券)	0 (0)	0.001 (0.001)
(c) その他費用 (保管費用)	3 (3)	0.029 (0.027)
(その他)	(0)	(0.002)
合計	8	0.084

期中の平均基準価額は、9,974円です。

(注) 上記項目の概要等詳細につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

#### 【組入上位10銘柄】

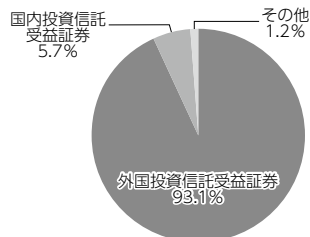
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1	iShares Global Healthcare ETF	投資信託受益証券	米ドル	アメリカ	6.3%
2	iShares Global Consumer Staples ETF	投資信託受益証券	米ドル	アメリカ	6.3%
3	Goldman Sachs JUST US Large Cap Equity E	投資信託受益証券	米ドル	アメリカ	6.3%
4	iShares Ageing Population UCITS ETF	投資信託受益証券	米ドル	アメリカ	6.2%
5	UBS Irl ETF plc - Global Gender Equality	投資信託受益証券	米ドル	アメリカ	6.2%
6	First Trust NASDAQ Clean Edge Smart Grid	投資信託受益証券	米ドル	アメリカ	6.2%
7	VanEck Low Carbon Energy ETF	投資信託受益証券	米ドル	アメリカ	6.2%
8	iShares U.S. Medical Devices ETF	投資信託受益証券	米ドル	アメリカ	6.1%
9	ISHARES GLOBAL CLEAN ENERGY	投資信託受益証券	米ドル	アメリカ	5.7%
10	Invesco MSCI Sustainable Future ETF	投資信託受益証券	米ドル	アメリカ	5.1%
組入銘柄数			27銘柄		

(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

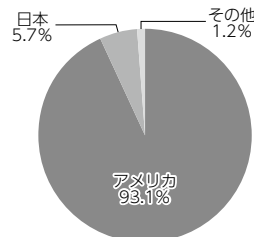
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

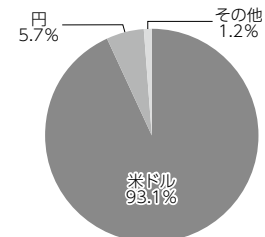
#### 【資産別配分】



#### 【国別配分】



#### 【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

(注) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分のデータは2023年9月11日現在のものです。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

## ○代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

### ○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。

### ○MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

### ○MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

### ○NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。

### ○FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

### ○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。